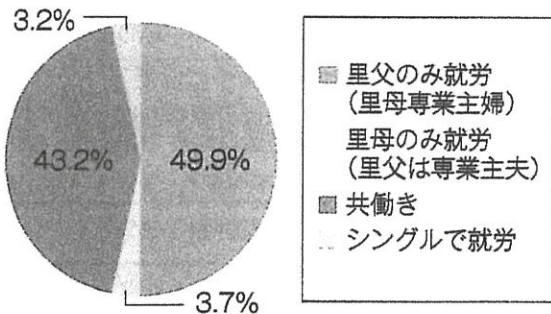


「里親の声を聞こう!」アンケートの結果報告

昨年1月、全国里親会の協力によって、NHKと「チャレンジ中野! grow happy♡」の共同で、里親アンケートを行いました。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

全部で549（有効回答、回収は553）の回答をがよせられました。アンケートの結果を紹介します。（齋藤直巨）

里親家庭の就労、43%が共働き

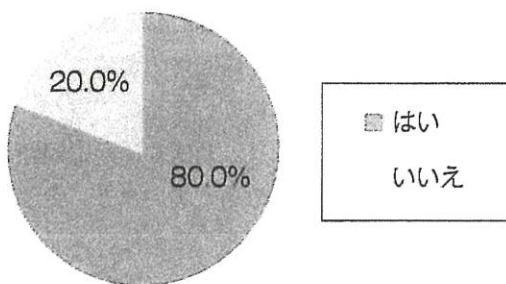


里親家庭といえば、お父さんは外へ働きにいき、お母さんは家にいる、というイメージがいまだに強いかもしれませんが、アンケートから見えてきた現状は、多くの里母達が働いているというものでした。

この結果からいえることは、里親リクルートで、共働き層へのアプローチが重要なポイントだということです。皆さんがどのように子育てと仕事を両立しているのか、知りたいものです。

里母のみ就労（里父は専業主夫）が3.7%いるのも注目ポイントです。

養育困難を感じている 全体の80%



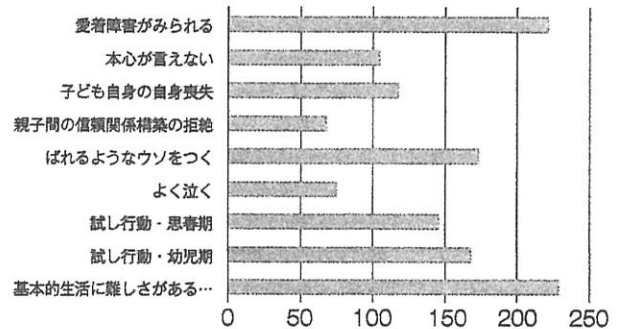
養育困難を感じている里親は、実に全体の80%にもなりました。

「周りの里親仲間が余裕に見える」という意見や、「自分だけ困っているように感じる」という意見も寄せられました。

多くの里親が同じように、養育困難を感じながら、子育てを頑張っていると現状が見える結果となりました。

困難さを感じていないという方のなかには、子どもがまだ小さいので分からないという意見もありました。

養育困難の原因 トップ3

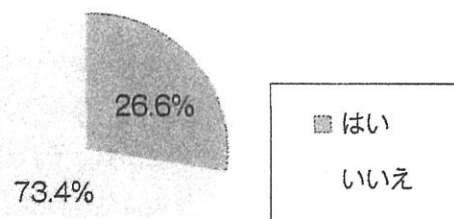


- 1位 基本的生活に難しさがある
(食事、着替え、生活リズムなど)
- 2位 愛着障害がみられる
- 3位 ばれるようなウソをつく

1位に選ばれた「基本的生活が難しい」ということは、たとえばいうなら、食事、排泄、睡眠という「いつもの生活」を過ごすことが大変ということなのです。これが24時間、365日続くことを考えると、頑張っている里親への支援が極めて大事だと感じます。

3位の「ばれるようなウソをつく」ということも里親が悩むところです。

「不調により措置解除をした」は4人に1人



里親の4人に1人（26.6%）が措置解除を経験しているという結果になりました。

養育困難から措置解除をしたケースが多くを占めました。養育困難で措置解除しなければならないという

ことは、里親として苦しい決断だったと思います。

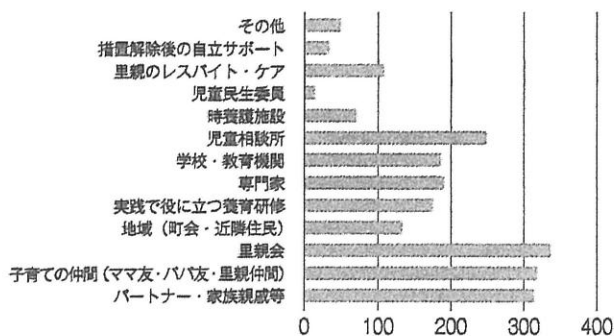
寄せられたコメントのなかにも、「自分たちの精神的負担が限界だった」、「子どもを見捨てたようで、後悔ばかりが残っている」という苦しい思いが寄せられています。措置解除にまで至らないよう里親支援が望まれるところです。

どんなサポートが必要？ トップ3

- 1位 里親会
- 1位 子育て仲間（ママパパ友、里親仲間）
- 3位 専門家（心理士、医師、療法士、弁護士、保健師、保育士等）

生活の近くで支えてくれる「里親会」、「子育て仲間」（同数）と、専門的な力で支えてくれる「専門家（心理士、医師、療法士、弁護士、保健師、保育士等）」へのニーズが高い結果となりました。

実際に役立ったサポート トップ3



- 1位 里親会
- 2位 子育て仲間（ママ友、パパ友、里親仲間）
- 3位 パートナー、家族親戚等

必要なサポートとして第3位に挙げられた「専門家（心理士、医師、療法士、弁護士、保健師、保育士等）」ですが、実際に役に立ったサポートランキングでは5位という結果となりました。

一般的な子育てよりも支援が多いはずの里親養育においても、ニーズと支援のミスマッチがあることがみえてきます。

そして、パートナーや家族、専門家もおさえて、役に立ったサポート第1位に選ばれたのが里親会でした。「必要なサポート」、「役に立ったサポート」の両方で1位となったことは、各地で活動している里親会の皆さんにとっては、とても嬉しい結果ではないでしょうか。引き続き、ピアサポートとしての役割を担っていただければと思います。

寄せられたコメント

「実子の養育を経てお預かりした里子が、あまりにも理解不能な行動をすることでずいぶんと悩みました。人によって態度が変わったり、ウソをついたり。それが、背景に愛着の問題があることによっておこる人間不信や不安からくるものなんだと知るまで、家族みんなが悩み、苦しい時期をすごしました。」

「里親の年齢が高いのに育児の経験がなく、最初は不安でした。」

「かわいいとは思いますが、心底からの愛情があふれてくるまでに1年以上かかった。」

「里親制度をよく知らない人が多く、里子を養育していることを隠す里親が多い。堂々と言える社会になればいいと思う。」

「このようなアンケートは、自分たちが日々の養育の困りや支援をどう考えているのが再考できるのでありがたいです。ネットでできるところも字を書くのが苦手なので嬉しい限りです。ありがとうございました。」

「子どもとの生活は、とにかく楽しいし、自分の生き方を誠実なものにしてくれる。妻が闘病中や他界後のつらいとき、子どもを一生懸命支えようと努めたが、逆に子どもに支えられていることが多くあった。本当にありがたいし、そんな子どもたちが愛しくてたまらない。施設と里親の見解の違いや、新しい養育ビジョン等の実行に関して対立してはいけない。どちらも違う機能を持ったソーシャルリソースのひとつではないので、それぞれの強みが子どもや子育て家庭を支援する選択肢のひとつであるようになりたい。児童福祉は時代遅れもいいところ。里親の活動を通して少しでも前に進めたい。」

「制度が里親のハードルを高くしていると感じる。日帰りの預かりから始めていずれ里親になるなど段階的な研修システムを作るべきだ。」

詳しくはNHKの特設サイトをご覧ください。

▶ NHKオンライン全国里親アンケート：
<https://www.nhk.or.jp/d-navi/link/kodomo/qa.html>

▶ アンケートのお問い合わせはこちら：
info@growhappy.jp

※「チャレンジ中野! grow happy♡とは、東大の政策コンテストを切っ掛けに設立した、東京・中野区を中心とした若い里親の活動です。有識者、行政、メディアを巻き込んで、里親の周知活動や研修を行っています。」